

すっかり残雪期

## 上信越国境 セバトの頭～稲包山

阿能川岳、小出俣山が雪が少ないため、転身。  
田村さんのリクエスト、セバトの頭を  
どうにか縦走できないかと考えたプランだった。

【日程】  
2019年3月2日（土）～3  
日（日）  
【メンバー】  
星野（L）、田村

【地形図】  
三国峠、四万  
【記】星野

### 3月2日（土）：快晴

今期、何回目だろうか？ また苗場行の夜行バスに乗っている。定期買った方が良いかもな。乗り慣れたバス、自分の家のように慣れた休憩所でしっかり仮眠を取り元気に出発。



苗場スキー場から、歩いて旧三国スキー場を目指す。雪の積もった林道を2時間ほど歩くが、空が青く今日は良い天気になるな、と嬉しくなる。しかし、田村さんのザックがぬり壁の様に大きい。木が伐採された、やたら広いスペースが、スキー場跡地のようだ。ここから、取り付く。スキー場の跡地だった為、登りやすいが急だ。田村さんの足元は、スノーシューで、私はワカン。スノーモービルと、スキーの滑降跡が雪面に沢山残っ

ている。人気なのかな。今日はだれもいない。何だかワカンの調子が悪くずれて登りにくいので、外してアイゼンに変えたが、気温が上がるにつれ、踏み抜きに苦しめられた。スノーシューの田村さんが、サクサク先行する。本当に強い人だな～と、感心する。

私は一人、遅れてポクポク歩く。春の雪山は穏やかだ。鳥がしきりとさえぎっている。スキー場跡地の斜面を登りきり、尾根に乗るために急斜面をぐるり迂回し、南側から尾根を目指す。

最高に良い天気だが、暑くて汗が噴き出てくる。

平標山、仙ノ倉山が真っ白に輝いている。まだまだ雪がたっぷり積もっているようで、今日はスキ



一を楽しむ人達で大賑わいだらう。私とえば、こんなに良い景色なのに、何だか疲れた。筍山からの尾根とのジャンクションを過ぎると、時々細尾根になり、雪庇の崩壊に気を使いながら慎重に歩くが、暖かさで踏み抜きがひどい。



疲れてとぼとぼ歩く私

標高が上がるにつれ、森林限界となり視界が広がっていき、気持ちが良い。それにしても何だかやたら送電線の鉄塔がニョキニョキそこらじゅうに建っているが、なぜなのだろう。やっと国境稜線に出た。セバトの頭は地形図通り、平らで広く、ピーク感が全くない。さらっとスルーして、稜線を稲包山へと進む。行程はまだ長いのだ。このあたりは、新潟とはやはり植生が変わってきている感じがする。ブナが減

り、針葉樹が目立つ。時々眺めの良い場所でどっかり座り休憩するが、暑さのせいで水の減りが早く、残りわずかだ。水も心もとないし、田村さんの足のつりもひどいので、予定より少し早い幕にする。風が避けられる良い幕場も見つかり、ぼかぼか暖かいので外で宴会しながら水作りをするが、春だね～。夜も寒さに震えることもなく、快適に眠れた。

### 3月3日(日)：くもり、小雪

本日は、天気予報があまり良くないので、早めに下山したい。外はどんより曇っているが、風は強くない。昨日よりは気温も低い。ワカンの調子も良く、昨日はずっと田村さんがトップだったので、今日こそはやるぞ!とトップになるも、すぐ田村さんに追いつかれる。鈍足が悲しい。頑張って登った、と思ったら同じくらい下る。山ってそういうものだが、ピークとピークにはしごをかけてしまいたい。西稲包山のピークから、最後のピーク稲包山を仰ぎ見る。標高差100m弱、あれを登るのかと思うと、うんざりするが、無心で行こう。今日は景色も見えないのでなおさらだ。



稲包山、遠い～！

何も考えず黙々と足を動かすと、どうやら山頂は目前のようだ。遠くから急に見えても、近づくとそうでもない事って、いがいとある。山あるある。山頂標識の前で、田村さんと固い握手を交わす。当初の予定は三国峠までの縦走の予定だったが、天気も悪いし、疲れたので、群馬側、法師温泉へと下山する事にした。ちょっとうれしい。予想よりも、尾根に雪がついていたので、サクサク下山したが、途中で田村さんのスノーシューがお亡くなりになったのは、

残念だった。退院してきたばかりだったのに。今度は、白砂山を目指したい。

### 【行程】

3/2 (土) 苗場スキー場 (7:00) ~旧三国スキー場 (8:48) ~スキー場最上部 (10:30)  
国境稜線 (13:20) ~1540m 付近 C1 (15:00)

3/3 (日) C1 (6:50) ~ 稲包山 (8:20) ~ ムタコ沢林道 (9:30) ~ BS (10:15)

